

技術・家庭科（家庭分野） 学習指導案

北海道教育大学附属函館中学校 技術・家庭科（家庭分野）

1 単元名 「B 食生活と自立」（第2学年）

2 単元について

本単元は、自分の食生活に関心を持ち、生活の中で食事が果たす役割を理解したり、健康によい食習慣について考えることをねらいとしている。また、栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について考えることをねらいとしている。

中学生の食事は家族が用意したものや給食が中心で、実際に自分で選択する機会があるのは飲料や菓子などの加工食品である場合が多い。成人より多くのエネルギーを必要とし、部活動や塾、習い事で夕食の時間が遅くなることの多い中学生にとって、飲料や菓子などの加工食品は必要な間食であり、補食である。多くの商品は販売され、中学生を惹きつける飲料や菓子の広告が出されている。スポーツやダイエットへの関心から食の機能性に関する情報に接する機会が増えている。また、食品の安全性については中学生においても関心が高まっている。

これら多くの食品の情報のうち、加工食品の適切な選択のために重要な意味を持つ食品の表示について理解させるとともに、上手な利用を考えさせたい。また、これまでは味や価格だけで選択していた飲料や菓子について、食品に関する表示や体への影響を通して学ぶことで、食と健康への関心を高めるだけでなく、消費生活の学習への意欲を高めることができると考える。

3 題材名 「加工食品の利用」

4 本時の目標

・用途に応じた食品の選択について、収集・整理した情報を活用して考え、工夫することができる。

【生活を工夫し創造する能力】

5 本時における「消費者教育で育むべき力」および学習指導要領の「内容」

領域	①消費者市民社会の構築に関する領域
項目・目標	ア・自らの消費が環境、経済、社会及び文化等の幅広い分野において、他者に影響を及ぼし得るものであることを理解し、適切な商品やサービスを選択できる力
目標を構成する要素	2) 適切な商品やサービスの選択

6 本時の学習活動

学習活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
<p>1 前時までの学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の商品の表示を見て、わかることや疑問点を整理したことの振り返り。 ・ 身近な飲料や菓子には「おいしい」以外にも「体によい」「安心して食べられる」という長所がある。 ・ 製造・販売する側の工夫 <p>2 本時の学習内容をとらえる。</p>	<p>○前時までに生徒が記入したワークシートをもとに振り返らせる。</p> <p>○授業の最後にとくに理解すべき内容をまとめることを予告する。</p>	
<p>健康や安全・安心のために加工食品をどのように利用すべきか。</p>		
<p>3 食品などの表示は、長所がわかりやすく、注意点はわかりにくい傾向があることを確かめる。</p> <p>4 以下の2つの実験を通して、食品の摂り方と健康や安全について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 味覚の実験（薄い砂糖水、食塩水から甘味・塩味を感じ取る） ・ 食品添加物の実験（無果汁のキャンディを目を閉じて鼻をつまんだ状態で食べ、着色料・香料の効果を感じ取る） </div>	<p>○実際に飲料や菓子などで表示されている内容を踏まえて理解させる。</p> <p>○食品や飲料から予想以上に糖分や食品添加物を摂っていることを実感させたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者の権利と責任という視点からも、表示に関心をもつことの大切さを理解させる。 ・ 前時で食品の表示が見ることができなかった生徒にも、表示を確認させる。
<p>5 健康や安全・安心を考えたとき、どのように加工食品を利用するかを考え、ワークシートに記入する。</p>	<p>○どんな食品でも完璧ということはないので、長所や問題点、数値等を比較し、選択することが必要であることを理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頻繁に購入する食品については、自分でも積極的に調べるように促す。

7 評価

味や価格だけではなく、食品に関する表示を活用して考え、健康や安全・安心にも配慮して食品を選択することができるか。【生活を工夫し創造する能力】